

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第067号(通算)

令和4年9月2日(金)発行

2学期が始まります。最近の朝夕の空気は、少しヒンヤリとして過ごしやすくなりました。来週の9月10日は、神戈陵祭 体育祭が開催されます。また、夏休みは、2年生が夏トライ・グレード・アップ・ゼミに参加し、3年生は、受験に向けて真剣に取り組んでいます。また、なぎなた部は香川県で開催されたインターハイで好成績をあげました。体育祭では、健康面のコンディションを最高レベルに上げて、是非、本番を楽しみましょう。

～豊玉姫伝説紀行～

夏休み期間中の校長散策レポートを紹介し、南九州市知覧町には、豊玉姫伝説が数多く残されており、いろいろと辿ってみました。

①鬢水 鬢水峠 腰掛石



衣郡(ころもこり)より川辺・知覧へ豊玉姫(とたまひめ)と玉依姫(たまよりひめ)の姉妹は向かっていました。峠の途中で、豊玉姫は、鬢(びん)の乱れが気になり、「水があったら入櫛(いれぐし)しよう」といわれると、不思議と清水が湧き出しました。この水を鬢水(びんみず)、この峠を鬢水峠(びんみずとうげ)といいます。また、休憩の際に豊玉姫が腰掛けたと伝えられる腰掛石も近くにあります。

②御化粧水(おごそみず)



この水で、豊玉姫がお化粧を直したと伝えられています。豊玉姫の一行は、知覧の加治佐に入り、鬢水峠から飯野に向かったとされます。

③飯野(いの)の由来



浮辺(うべ)から飯野まで来た一行はこの集落で昼食を取りました。そのためこの集落を飯野(いの)と呼ぶようになったと伝えられています。

④白水・干原



一行が昼食で、干飯(ほしいいかい)を洗い、それ以来白い水が出るようになったと言われる場所です。近くには干原(ほいはら)という地名も残されています。

⑤宮入松(ぐれまつ)



飯野から塗木に抜けるこの道は、江戸時代からの街道で松が植えてありました。神話の世界では、この地で豊玉姫一行が行列を整えられたと伝えられています。豊玉姫の輿(こし)が止まったといわれる所に石碑が建っています。

この南薩摩には、多くの神話に由来される地名が残っていることに驚かされました。

⑥取違(とりちがい)の由来



この集落で一行は一晚の宿を取った際、妹である玉依姫は水田が多い川辺へ朝一番に馬で出かけてしまいました。朝起きた豊玉姫はしかたなく牛に乗って知覧へ向かいました。行き先をこの集落で取り違えたということからこの集落を取違と言うようになりました。

⑦鬢石(びんいし)



豊玉姫が猿山山頂のこの岩に座り、髪をとかしたとされる石です。近くには、太平洋戦争当時の人力で運ばれて設置された山砲(さんぱう)座

跡があります。(対空高射砲の代替)

⑧豊玉姫神社



豊玉姫を祭神とする神社です。水車からくり人形でも有名で、今年は、海幸彦と山幸彦の物語が題材とされていました。

⑨豊玉姫陵



ここは豊玉姫の陵墓と伝えられています。以前は木が生い茂り小さな林のようになっていたそうで、そこは鍬(くわ)も入れてはならない場所でした。耕地整理が行われたときもそのまま残されました。今では、田んぼの中にぽつんと丸く石囲いがあり、森山信仰と豊玉姫伝説が結びついたような場所なのかもしれません。

☆参考文書 南九州市文化財ガイドブック(知覧地区) 今回、いろいろと回ってみて、南薩って面白く、興味深い土地だと改めて感じました。皆さんも、何かに興味を持ったら、自分で動いて調べてみましょう。きっと楽しいですよ。

始業式校長講話より

日本古来の心の考え方
『一霊四魂』



直霊が4つの魂を統括し、省みることで人格が発達する。

自分の言動が正しいのか、誤ったことなのか? 省みることがあります。この反省する力をもって、4つの魂をそれぞれ磨くことが人格を成長させるという考え方は、日本古来の精神構造、魂の構造です。これらが、千数百年前の日本にあった世界観であることに驚かされます。マンガ「犬夜叉」の四魂の玉は、これが由来?